

1. 国際協力に興味を持ち始めたところですが、キャリアを築いていくうえで今からできることはどんなことがありますか？

（河野）情報収集を行ってはいかがでしょうか？インターネットや SNS を通じて、国際協力のコミュニティ等でいろいろな方の話を聞くと、自分になりたいキャリアに合うものが見つかるかもしれません。働いている人に直接会って話を聞くのはとてもおすすめです。

こちらの本もご参考まで。

- 『国際協力キャリアガイド』株式会社国際開発ジャーナル社
- 『世界で活躍する仕事 100：10 代からの国際協力キャリアナビ』東洋経済新報社

2. 自分の専門分野を見極めるのに必要な要素は何だと思えますか？またどのように決めたらよいと思えますか？

（河野）自分がその専門分野を純粋に好きかどうか。没入できるのであればおそらく間違いないと思います。

3. あまり裕福な家庭環境になく、海外に行くことが難しい状況にありますが、国際協力に関わりたい気持ちがあります。そのような人が国際協力に携わりキャリアを築くにはどのような方法がありますか？

（河野）奨学金制度はたくさんありますのでチェックしてみてください。大学も奨学金があるところがたくさんあります。私も大学院は国立大学で授業料免除で修士号を取得しました。

- 国際協力 Station 国際協力関連の奨学金リスト

<https://idj.co.jp/career/9053/>

4. 現地に行って大変だったことはありますか？

（河野）衛生面や治安面で全くストレスがないわけではありませんが、特に大変だったという記憶はないです。どちらかというの不都合や予期しない事象を楽しむタイプなので途上国向きだとは思います。

5. 修士や博士を持っていた方が有利になることはありますか？

（河野）あります。博士号は日本よりも海外での評価が高いので日本よりも有利です。

6. 海外の人と関わる時に日本について知っておいた方がよいと聞きますが、具体的にどのようなことについて特に意識をしたり勉強しておくとういと感じますか？

（河野）勉強というよりは体験をお勧めします。体験は五感を使うので、自分の言葉で立体的に語れます。あとは、政治、経済など日本人はあまり話題にしません、海外だと話題になるので、知識として知っておくことに加えて、自分はどう思うという意見を持つことが大事かなと思います。

7. コロナ禍で高校を受け身で過ごし、大学生になった今、いざ何かアクションをと思っても、自分にできることがわからない状態になってしまいました。自分の進みたい分野はありますが、何から始めてよいかわかりません。アドバイスがあると嬉しいです。

（河野）少しでも心や体が反応するものに対して行動してみるのはいかがでしょうか？頭で考えているだけでは何も変わりません。体の感覚を大事にしてみてください。自分ができるかどうかはやってみないとわかりませんから、小さなことでもやってみましょう。

8. 将来途上国で教師になりたいと考えています。実際に現地の方に意見を伝えたりする時にどのようなことを意識して意見を伝えていきますか？

（河野）現地の文化や社会的背景を尊重できているかどうかを意識します。これは途上国に限らず、人と人とがコミュニケーションをとる時には大切なことだと思っています。

9. 長期休暇は個人的に世界の孤児院など児童施設を訪ね子どもたちと絵を描いたりしています。そのような仕事ができないか考えていますが、何かヒントをいただければ幸いです。

（河野）今の活動が心地よいのであれば、このままでもよいのではないのでしょうか？仕事＝生計を立てるとなると資金調達に多くの時間を費やすことになり、子どもたちとの時間は取れなくなるかもしれません。孤児院などの運営をしたいのか？子どもたちと一緒に活動したいのか？何をしたいのかを明確にされるとうち少し活動が具体化されるかもしれません。

10. 国際協力の経験で、日本の大学・高校教育に取り入れることができると感じたものはありましたか？また、国際協力で訪れた国々の教育で、日本の教育にあったらいいと感じたことはありましたか？

（福地）しっかりとカリキュラムを確認したわけではないのですが、複数の友人、同僚から高校で労働法、労働者の権利、健診の権利などを習うと聞きました。今の日本の高校はわかりませんが、私は授業で習った記憶がありません。その話をすると友人の一人は、「労働者の権利を守らない会社にやとわれたらどうするの！？」と驚いていました。日本でも生きていくうえで必須の権利とそれを守る法律を働き始める前にしっかりと教える必要があると感じました。

11. 私は現在大学3年生で、自分の今後の国際開発分野でのキャリアの可能性を広げるために、専門性やスキルを身につけるべく海外大学院への進学か、より実践的な実務経験をまず得るために JICA を第一希望とした就職活動を行うかで悩んでいます。ご自身の経験を振り返ってみて、どのような道筋が有効であったか助言をいただきたいです。

（川口）国際開発分野の中で、まず自分がどのような立ち位置から関わりたいか、というのも一つ重要かと思います。既にこういった専門性やスキルを身に付けたい、と決まっているのであれば院進学もとても有効かと思います。私のように JICA 海外協力隊は、すぐに現場での実践を行うことができますが、JICA 職員としての就職はやはり配属部署によって、やりたかったことが数年できないなどという話も聞きます。（これはどこの会社でもそうですよね）また、協力隊参加も、私は新卒ですぐに派遣、帰国後起業というレアケースですが、やはり新卒で

派遣になると帰国後の就職で少し手こずる（1～2 年社会人経験をしてから参加すればよかった）という風に言われているのも事実です。ただ、まわりまわったとしても、その時々を経験が無駄になることはないですし、自分の強い思いさえ持ち続ければ、どのような道順であっても間違えということはないと思います。頑張ってください！

（福地）まずどちらの選択肢も多くの可能性があり、何をするかが大事になると思います。大学院に行きながらインターン等で実務経験を積むこともできますし、仕事をしながら大学院に通うこともできると思います。私も悩みましたが、まずは実務に携わってみたかったことと、テーマが明確に決められなかったのでもまずは就職を選びました。実務に携わりながら本気で深めたいテーマが決まったら進学しようと考えていました。結果的には仕事をしながらやはり深めたいと思えるテーマが決まり、その覚悟で進学したことで、全力で学ぶことができたと思っています。また、実務の世界と比べながら学問的に深められたこともよかったと感じています。他方で今明確なテーマが決まっているのであれば、熱いうちに大学院でしっかり深めることも素晴らしいと思います。特に博士課程まで考えているのであれば、かなりの時間とエネルギーが必要になるので、熱いうちに取り組みつつ、上述したように多様な機会を活用して実務経験を積むことも可能と思います。どちらを選ばれても素晴らしい結果になることをお祈りしています。